

東京の商業・金融の中心地・日本橋に

マンダリン・オリエンタル・ホテルが進出

再開発が進む東京・日本橋にランドマークとなる「日本橋三井タワー」が完成。その高層階にマンダリン・オリエンタル・グループの日本初進出ホテルとなる「マンダリン・オリエンタル・東京」がオープンした。その土地ならではのユニークな特徴を取り込むことを信条としているマンダリン・オリエンタルが、日本橋再開発に力を注ぐ三井不動産と手を組んで、日本橋の新たな「顔」になろうとしている。

「日本橋三井タワー」高層階にホテルをオープン

2005年12月2日、東京日本橋に「マンダリン・オリエンタル・東京」がオープンした。香港を拠点に、アジア・アメリカ・ヨーロッパの主要都市やリゾート地で約8000室、30のホテル（近日開業分も含め）を展開するマンダリン・オリエンタル・グループが、日本初進出の地として選んだのが、東京日本橋に誕生したばかりの「日本橋三井タワー」である。「日本橋三井タワー」は日本橋再開発に取り組む三井不動産が、自社の所有地に建設した高層ビルで、地上39階地下4階のランドマークとなる複合施設である。



「マンダリン・オリエンタル・東京」は、上層部30階から38階、および1・2・3階など、延べ床面積27,420㎡を30年間の契約で借り受け、ホテル・レストランを展開する。客室は30階から36階を占有する179室で、新感覚のデザインの中にも日本の伝統と気品を醸し出す空間を演出している。どの部屋も床から天井まで一面大きな窓になっており、東向きの室内からはお台場や隅田川、東京湾までが一望でき、西向きの室内からは皇居の緑や銀座、新宿副都心の高層ビル群、さらには遠くに富士山まで見晴らすことができる。

また、客室にはホテルとしては日本初となる45インチ以上の液晶テレビが設置されており、海外放送やケーブルテレビなど58チャンネルの番組が楽しめるほか、さらにはインターネットでの情報検索も可能である。

また、「マンダリン・オリエンタル・東京」ではレストランやバーなど9箇所の飲食施設を備えている。最上階38階にはオールデイダイニング「ケシキ」があ

るほか、すでに評価の高いアフタヌーンティやシガーが楽しめる「オリエンタルラウンジ」があり、東京でも流行に敏感な人々をひきつけるに違いない。すでに世界各国でマンダリン・オリエンタルの呼び物となっているスパも日本に初上陸する。一般客でも利用できるのも、高級志向の女性たちでにぎわうことになるだろう。

日本橋で「センス・オブ・プレイス」をめざす



ホテルの開業を控えた11月24日、「日本橋三井タワー」のグランドオープンを記念する記者発表会が開かれた。席上、三井不動産の岩沙弘道社長は、日本橋再開発計画の全体像を説明し、地元コミュニティとの関係を重視するマンダリン・オリエンタル・グループ進出の意義を強調した。続いて登壇したマンダリン・オリエンタル・グループのエドワルド・

エティグエ CEO 兼社長は、ホテルの経営指針などに関して次のように語った。

「マンダリン・オリエンタルのミッションは、お客さまに喜んでいただき、満足していただくことです。そのために当社の基本的価値観である、伝統・品質・革新をもとに「伝説となるようなサービス」を提供していきます。東京における宿泊最低料金5万円以上のラグジュアリーホテルは、「マンダリン・オリエンタル・東京」を含め3施設となりましたが、当社はこのホテルで新たな伝説をつくっていきます」

また、なぜ日本橋を選択したのかについて「日本橋は東京の中心であり、江戸の歴史と文化を色濃く残す金融と商業の街です。この街には伝統と革新が融合しており、当社の基本的価値観である伝統・品質・革新と一致します。当社は世界のどの都市においても「センス・オブ・プレイス」、その地ならではのユニークな特徴を付加して、地元のコミュニティに溶け込んできました。私たちはそれをこの素晴らしい日本橋という街で実践できることを嬉しく思っています」と、その理由を明らかにした。

日本橋は江戸時代から日本各地へ続く五街道の基点として発展し、いまでも多くの老舗・名店が軒を連ねている。日本の商業・経済の中心地である日本橋に、「マンダリン・オリエンタル・東京」がオープンしたことで、街に洗練されたホスピタリティとノーブルな輝きが加わったのである。